

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

# 国鉄「35万人体制」粉碎の 突破口をきり拓こう！



## 日刊 動労千葉

79.10.18  
No.251

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
鉄電二二五八〇九(公衆電話)七二七二〇七

### 反動集団の闘争破壊を許すな！

動労千葉は、第一回臨時委員会の圧倒的成功の上に、二期工事阻止・ジェット増送阻止・国鉄三五万人体制攻撃粉碎・10・21国際反戦闘争勝利へ向けて闘う体制づくりを押し進めてきている。「国鉄三五万人体制」粉碎と結合した反合・ジェット闘争として位置付けて闘われるこの闘いは、今日の極めてきびしい情勢下の中、とりわけ、先の森山運輸相の「春闘処分の凍結」にみられるスト封じこめ・組合丸がかえ路線による国鉄「再建」策動に屈服し、労使協調路線に墮する動労・国労中央指導部の反合闘争放棄という現実の中にあつて、その逆流に抗する国鉄反合闘争の第一波の闘いでもある。10・21・22の第一波の闘いを全組合員の総力決起をもって闘い抜き、秋季闘争に圧倒的に勝利し、年末から春へ八〇年代闘争の圧倒的高揚をつくり出してゆこうではないか。

#### 八〇年代に見合う「国鉄づくり」としての攻撃！

国鉄当局は七月発表した「再建基本構想」にもとづき、着々と「三五万人体制」攻撃を進めてきている。

この大合理化計画の骨子は、第一に旅客輸送に ついては、都市間輸送を新幹線を軸に抜本的な再編を行い、在来線は、国電による大都市圏輸送以外はローカル線廃止や徹底的に間引き、あるいは削減する。第二に貨物輸送については、大資本優先の大量定形型輸送体系つまり武操型といわれるものにつくりかえる。第三にこの合理化を通して徹底した人員削減、作業勤務体制の根本的改変を行い七万四千人を削減し、三五万人体制とする。こうしてローカル線切りすて、運賃値上げを中心とする大衆収奪と国鉄労働者に対しては、徹底した労働強化と民託化を強制しようとしているのである。

#### 「三五万人体制」の尖兵 ・「本部」反動分子！

こうした過去の合理化とは全く異なる新たな合理化攻撃を通して、戦闘的国鉄労働運動を破壊しようとしている。

全職場にわたる全面合理化を押し進める一方、労使慣行、人間関係破壊を含めた、第二マル生攻撃をもって、戦闘的国鉄労働運動そのものを破壊し産報化することである。

この恐るべき合理化攻撃を目前に国労・動労中央指導部は、国鉄労働者の戦闘力に依拠してこれと全面対決する方向性を全く提起せず、動労「本部」のごときは、「安定宣言」をいち早く打ち出し、闘わんとする労働者を暴力をもって圧殺し、積極的に当局の武装親衛隊の役割を果しているのが現状である。

今日、政府・国鉄当局は、「55・10」を待たず、「55・3」にその攻撃を押し上げてきている。乗務員運用効率のアップ、仕業検査の見直しな

どを軸に合理化攻撃を強行する動向にある。

職員の新規採用制限(退職者数の半数)問題とも合せ、闘いの山場は、今秋から来春にかけてがもっとも重要であり、国鉄三五万人体制粉碎闘争の大きな出発点がこのにあることを銘記しなければならない。

「安定宣言」で引きまわし、「55・10」のドンツマリで当局に屈服するということは「55・10」の誤まりを再び繰り返す敗北の路線であると断言しなければならぬ。

#### 路線の正義性をかけた闘い

動労千葉の10・21・22闘争は、「三里塚・ジェット」と以上のような「三五万人体制」攻撃粉碎をかかえて闘い抜かれる。

この動労千葉の「10・22スト」に対し、「本部」反動暴力分子は「再建情報」№6(10・15付)において、「10・22スト断固反対」「10・22ストは中核派の政治的面子のため」などと許しがたい敵対を行ってきた。

労働組合が職場からの実力闘争で「二期工事粉碎・ジェット増送阻止」「国鉄三五万人体制粉碎」を闘うことと、「安定宣言」で闘争放棄すること、どちらが正しいのか。

まさに「10・22」は路線の正義性をかけた闘いなのである。一四〇〇名の総力をあげて、動労千葉のこの間の闘いの成果と未来をかけて、断固闘い抜いてゆこう。



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！